

# 障害に特化された 新作業棟における活動報告

増築作業棟活動開始日：2009年9月24日

目的：集団生活が困難な利用者に対し、利用者の様子に合わせて個人活動スペースを作り安心して活動を行なってもらえる環境の下で活動を行なってもらおう

利用人数：月曜日	AM－8名 PM－9名	火曜日	AM－5名 PM－13名
水曜日	AM－8名 PM－11名	木曜日	AM－7名 PM－3名
金曜日	AM－8名 PM－7名	土曜日	利用なし (朝の会・帰りの会時6名利用)

## 【活動内容】

### ○下請け（パチンコ解体）

利用者が、それぞれの空間と作業ペースでパチンコ台の解体作業を行なう。

### ○和紙

牛乳パックをきる作業・紙を細かくちぎる作業など、工程の分かりやすい作業を中心に活動を行なう。

### ○手作り

ビーズ・縫い物・編み物など、手順が分かりやすいものを中心に活動を行なう

### ○創作

創作活動を行なう。

### ○ガーデニング

プランターを使い、野菜の栽培を行なう。

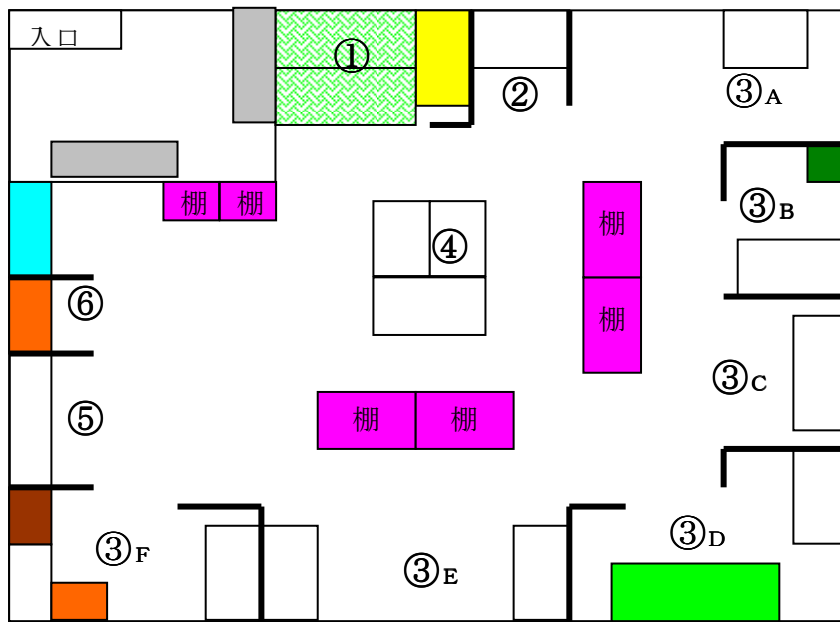
### ○生活

生活するうえで必要となる技術（掃除・洗濯・歯磨きなど）の習得を目指し、将来の生活につなげる（グループホーム・ケアホーム・自宅など）

### ○広報

パソコンでの打ち込み作業を中心に行ない、カレンダーの作成・行事の様子を知らせる手紙等の作成を目指す

## 【増築作業棟内レイアウト】



### ①：休憩スペース

休憩中や気持ちの切り替えを行う時に使用

### ②：気持ちを切り替えるスペース

興奮時、一人で静かに気持ちを切り替えたい時に使用

### ③：作業スペース（個人）

利用者の様子に合わせた空間と配置により、落ち着いた環境で活動を行なう為のスペース

### ④：作業スペース（小集団）

数人の利用者が集い、創作活動などを行なう。その他、朝の会・帰りの会を行なう場所

### ⑤：下請け材料置き場

パチンコ解体で使用する道具を保管している場所

### ⑥：パソコンスペース

広報の活動時使用。利用者が、カレンダーの作成等を行なう。

（③のパソコンスペースは、この空間を使う利用者専用のパソコン。）

### 【③のスペースについて】

③のスペースは、当初予定していた集団生活が困難な10名中7名が基本的に使用するスペースとしている。

### ③Aを使用する利用者

〈空間作りの目的〉

人が近寄ることを好まないという行動（寄ってきた人がどんな行動をするのかわからず、見通しが持てないため）が見られる。よって、個人活動スペースを準備することで、人が寄ってくるという不安を取り除き、安心して活動を行ってもらおう。

〈活動を始めてからの様子〉

表情よく過ごしている。活動の場所・休憩場所・食事場所と今まで1つの場所から移動が出来なかったが、この空間を利用し始め各場所の区別がつくようになり非常に落ち着いている。また、急に人が近寄ってくるという不安も無くなり、各活動への移動もスムーズに行うことが出来るようになり、活動に対する積極性も出てきている。本来持っている本人の力を自分自身で引き出している様子が見られる。

### ③Bを使用する利用者

〈空間作りの目的〉

本館での生活を行っていたが、見通しの持てる支援がなされていなかったことで、さまざまなこだわりを身につけ、そのこだわりを終了しないと家に帰れないという悪循環が生まれていた。少しずつ改善してきているが、彼にとって本館のスペースは、刺激が多く入り、集中できない環境になっている。そこで、場所を変えることで、もう再度、生活リズムを整えることを目的とし、刺激の少ない個人活動スペースを準備し対応を行う。

〈利用を始めてからの様子〉

1日の流れを、本人が理解できる具体物（活動を示すアイテム：ドライバーなど）を使い本人に提示し、対応を行なった結果、本館でのこだわりが軽減され、見通しをもって1日を落ち着いて過ごす事ができている。

### ③Cを使用する利用者

〈空間作りの目的〉

集団での活動は、本人の様子からみると、まだ難しい。（破壊行動等が見られるため）また、集中しているときに、外部からの刺激が入るとそれが、いろいろな原因となることもあるため、個人活動スペースを利用する。

〈利用を始めてからの様子〉

その日の体調・精神状態によって異なるが、落ち着いて過ごす事ができている。破壊行動については、調子がよくないときに起こるが、職員がマンツーマンで対応を行なう事で軽減されている。今後の課題としては、本人が不安定になった場合の気持ちの切り替え方を探し、本人が破壊行動を行なうことなく気持ちの切り替えを行えるような状態を目指し支援を行なっていくが重要と考えている。

### ③Dを使用する利用者

〈空間作りの目的〉

常に注意散漫で、気になるものを目にする、それを触らないと気が済まないといった行動が見られる。個人活動スペース内の配置は、以前使用していた相談室内の配置と同じ形にしています。休憩時間に使用している畳ソファを個室内に配置することで、移動の際の外的刺激をほぼカットする。

〈利用を始めてからの様子〉

外的刺激をカットした事もあり、本人がきになるものがなく、活動にも集中できている。また、本人にとってくつろげる空間になったことで、以前の見られた多動行動は、ほぼ見られなくなった。

### ③Eを使用する利用者

〈空間作りの目的〉 2名が使用

集団の中で活動を行うことは可能ですが、活動の内容がばらばらな場合、活動に集中できない。また、見通しの持てる活動でなければ混乱する。さらに、活動の場所が決まっていなくて納得できない・集団の中では集中できないという様子から、それぞれが活動を行う場所を固定していくために使用する。これにより、活動場所・余暇場所・食事場所と環境の整理を行うことで、1日見通しを持って安心した生活リズムを作っていく。

〈活動を始めてからの様子〉

1名は、まだ、この環境になじめていないため、気持ちの切り替えに少し時間がかかってしまうこともある。しかし本人は、落ち着いており大きな興奮もない。活動も集中して行うことが出来ている。

もう1名は、活動を始めた時より、表情よく過ごしている。常にその場所に座り、自分の居場所として理解している。周囲の雑音によるフラッシュバックも少なくなり、パニックになった場合も、以前に比べスムーズに気持ちの切り替えを行えるようになっている。

### ③Fを使用する利用者

〈空間作りの目的〉

集団での活動は、彼には向かないと考えられます。よって、個別支援を行うために個人活動スペースを準備します。彼は、自分のスペース内に人が侵入することを嫌うため、他の利用者とは少し間をあけた場所に個人活動スペースを作り、そこで安心して活動を行ってもらおうようにする。

〈活動を始めてからの様子〉

自分のスペースを確保し、絵カードを使ったスケジュール使用し、落ち着いて1日を過ごしている。このスペースには、他の利用者が入ることは無い為、本人の中で安心した空間として認識されている。そのため、以前ではイライラしていた活動も、自分のペースで行うことが出来るようになり、興奮してパニックを起す事がほぼ、無くなった。

### 【④のスペースについて】

④のスペースは、10名中個室を利用しない3名が基本的に使用している。また、この10名以外の利用者数名と合同で活動を行なう際にも使用している。

〈空間作りの目的〉 3名使用

彼らは、個人活動スペースで活動することは必要な要素ではない。しかし、集団の中で、指示された活動を行うことが難しく、それぞれに個別の支援が必要である。それぞれが集中して活動を行う環境を作る。

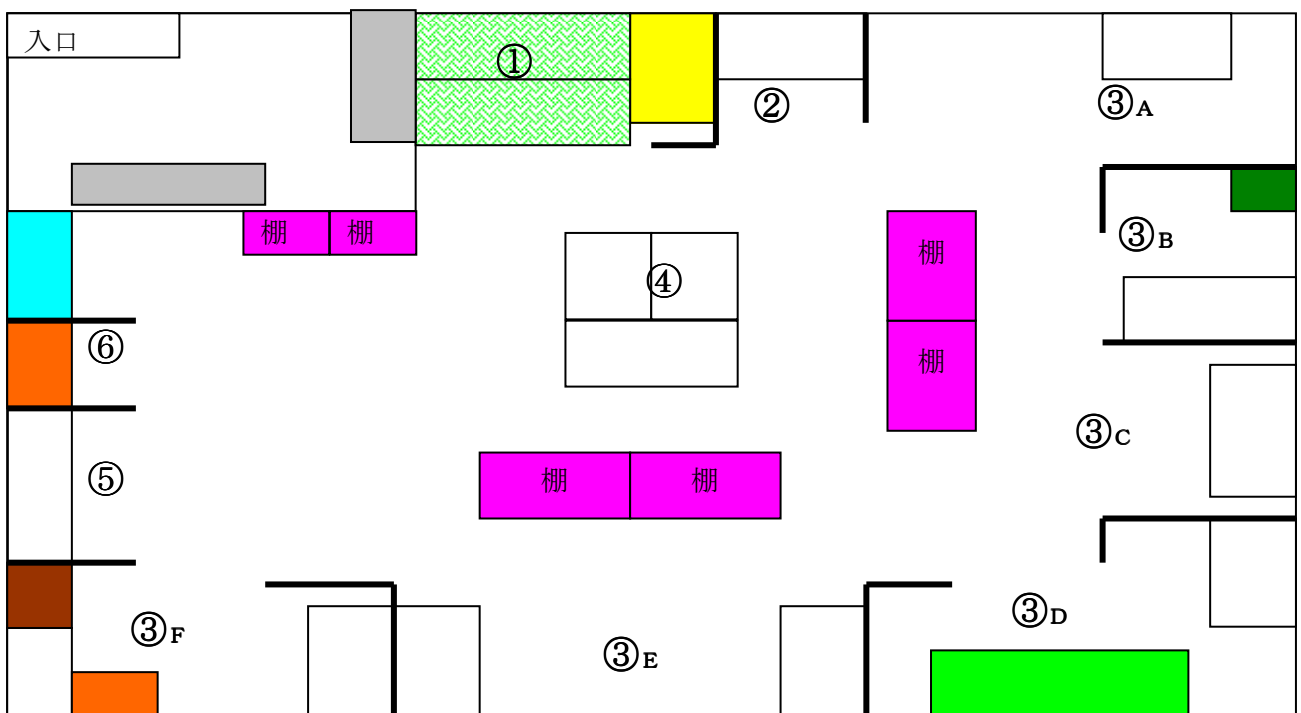
〈活動を始めてからの様子〉

非常に表情よく過ごしている。本館を利用している時より表情が明るくなっている。周囲の音や人を気にする事無く落ち着いた空間でゆっくりと活動を行うことが出来ている。

【全体のまとめ】

本館と増築作業棟（新館）で活動する利用者を分けたことで、集団の中で過ごす事が困難な利用者は、パニックを起す事無く、見通しを持って1日を過ごす事ができている。また、当初予定していた利用者のみでなく、全利用者が、それぞれの場所で集中して活動を行うことが出来るようになっている。そのため、以前では出来なかったことも出来るようになった利用者も出てきている。

この増築作業棟での活動は、始まったばかりではあるが、今後利用者の秘めた力を引き出すことが出来ると考えている。



①



③A



③C



③E



④



②



③B



③D



③F

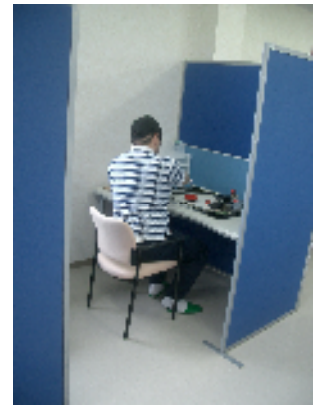


⑤



## 利用者活動風景

⑥



全体

